

東由利村報

No. 116 1967・3・1

発行
東由利村役場
毎月1日発行
定価1部5円
印刷
KK本間印刷所

第7回

中学生をはげます会

回を重ねると7回目、3月1日午前10時から、玉米・下郷両中学卒業生216名が参加して行われた。

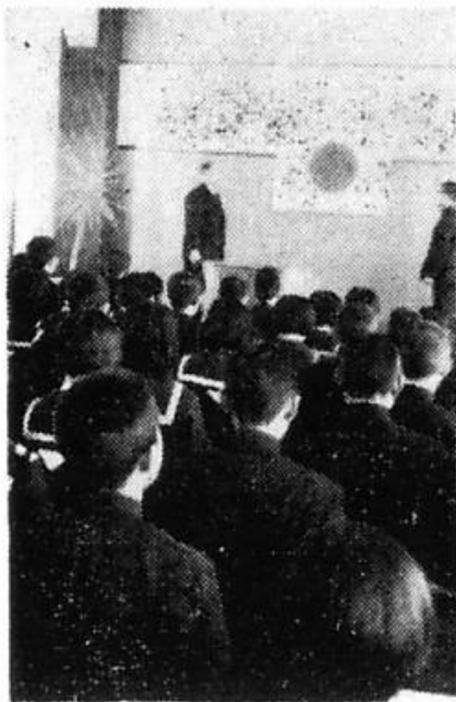
開会・両校々歌の交歓・来賓祝辞・村長はげましのことば村政のお話で午前をおわって会食。

祝辞

議長、我が村は環境のすぐれた村で将来に大きな希望が持たれる。村にとどまる者はもちろん、出て行く者も力を合せて幸せな郷土を育ててもらいたい。

教育委員長、成功をあせらず目標を見失わずたゆまず進め村長の話、村の現状と将来子ども達の将来について体験にもとづく確信からほどばし熱誠あふるるお話は生徒を始め聞く者に大きな感動を与えた。

生徒代表謝辞、失敗にめげずがんばって、今日の、これまでのご恩にむくいる覚悟です午後はレクリエーション、映画、森の王様・シルクロードの旅・日本一物語
閉会午後4時。



写真上中学生謝辞

小松悌太郎氏死去

偉大な村治の功労者

老来益々壮健であった小松氏は、2月15日突然なくなられた。享年85才と2カ月、葬儀は18日泉秀寺で盛大に行われた。

氏は大正14年より昭和22年まで村会議員連絡21年10カ月昭和14年6月より21年11月ま

で下郷村長2期7年5カ月をつとめられた。

特に村長在職中は太平洋戦争のさなかで食糧難中の米の供出を始めたといえようのない困難を切りぬけるために苦心せられるなど、村自治にとって偉大なる功労者であり、その死は各方面から惜しまれている。

健康な稲づくり運動

2月7日関係者多数が集まって、42年度の稲づくり推進計画について話し合った。

①優良品種の統一

基幹品種して次の作付を90%以上とする。

ヨネシロ・ハツニシキ・サワニシキ・ウゴニシキ・ミヨシ

②健苗育成と早植

畑苗代による作付20%以上
折衷苗代により作付70%

③自給肥料の増産

○1家1頭以上の家畜飼養
○促成堆肥の造成指導

④病虫害の発生と防除

特に出穂前の集団一斉防除

⑤除草剤の適正使用と水管理

⑥適期刈取りと乾燥調製の改善

⑦共同作業の実行

特に基盤整備地区に於て

⑧ヘリコプター防除

実施についてはこの会ではきめないで、その後各部落毎に農家の意見を聞いてそれをまとめた上で、2月28日の会議で老方から館合までの地区で試験的に実施することにした

なおこの会議の趣旨を徹底させるため、部落又は数部落まとまって、増産班、農協婦人部などを中心に、中村普及員・本荘普及所員などが、「5石どり稲づくり」その他のスライドによる資料を持って連日巡回指導をしている。

なお東由利農協ではスライドとその映写機を買い入れた。

献血にご協力

ねがいます

来る15日献血車「あかつき号」による採血が下記日程により行われます。皆様の温か

いご協力をお願いします。

記

玉米農業 午前10～午前11時
役場前 〃11時30分～1時
新田児童館午後1時半2時半
大琴貞一氏宅前後3時～4時

国保の窓口から

被保険者の異動届出

はお忘れなく…

3月は卒業の時期、又就職の時期でもあります。

職場に就職されますと、職場で健康保険・共済組合又はその事業所のある市町村の国民健康保険などに加入させられます。

ところで村から離れて就職されますと、村の国民健康保険の方に被保険者の資格喪失届出をしなければなりません

この届出をしないでいますと国保税が余分にかかります

今一度保険証をたしかめて下さい。またその他の異動(出生・死亡・転入・世帯変更等)があった場合も届出が必要

です。届出の期間はすべて10日以内ときめられています。

届出の際には次のものが必須です。

1、各世帯に配布になっている国民健康保険被保険者証

1、世帯主のはんこ

○転出証明書交付申請の際には、国民健康保険の届出も

合せてお願いします。

人権法律相談所開設

人権思想を普及しこれを高めるため無料で一般の法律相談に応ずることになりました

記

1、日時、3月8日午前10から午後3時まで

2、場所、東由利村役場

3、対象地区、東由利村全域

4、担当者、人権擁護委員3名、職員2名

日本人は法的知識に弱いといわれております。せつかくのもようにさっぱり集りがないのはおいしいことです。どんな問題でもよいから進んでご利用下さい。

郷土史夜話

準にしようとしたもので、この検地によって大名らの領国が決定し、その公認と

⑤

下村殿への知行状

天正18年に豊臣秀吉が奥羽諸大名宛知行朱印状を出しているが、由利十二頭の一人下村殿へもこれが出されている。(文書は秋田県立図書館蔵)

出羽国由利郡内下村百七拾五石事令扶助訖、全可領知候也、

天正18年12月24日
(秀吉朱印)

下村彦次郎殿

この年小田原攻撃を終えた豊臣秀吉は、さらに奥羽経略をはかり上杉景勝・大谷吉継らに検地を命じた。いわゆる「太閤検地」である。これまでまがまちであったものを一定の統一原則を設け、全国的に施行してかねて秀吉が考えていた朝鮮征伐の軍役割付などの基

して知行状が出されたものである。

この検地は8月から実施され、それが12月末には前記知行状が出されているので、短期間中に奥羽一円、一筆毎に竿入れ(6尺3寸四方で一步)が行われたものとは考えられず、各領主に対してこれまで秋田地方で慣習的に使用されてきた刈高で生産高を指出させ、これを石高に換算しなおしたものでしょうといわれる。そして年貢率は二公一民(3分の2を年貢として納める)が原則であったというから非常に高いものである。由利十二頭のうち知行状が現存し、また明らかに伝わっているのはこの下村彦二郎と岩谷能登守(845石)石沢二郎(398石)の3人だけである。【正】

議会議員・役場職員

合同自治研修会



長年にわたる広くゆたかな経験と高い教養から語られる先生の教えは一語一語聞く者の心に深くしみとおるものがあって、「広く村民のためにも毎年この会を開きたい」という強い要望が高まっている

お話の要点

1、近代行政の指導理念

○民主々義をつらぬくこと

職員は住民のための奉仕者である。一にも二にも住民の幸福を頭において仕事をする事だ。

2月23日、県自治研修所長丸の内久先生を講師としれ役場でこの会を開いた。

○能率主義、仕事は住民に対する深い愛情が根本で、その幸福を増すために常に創意工夫をつづけなければならぬ
○社会構造と行政構造のくいちがい

社会の変化に行政は追いつけない。このくいちがいをちぢめるために、変化に対応する長期計画を立て、社会のものとめにこたえられるように行政をあらためなければならぬ

3、行政組織と機能

○組織の原則

▷上司の補佐

(一)組織の方針をよく生かし正しく生かす

(二)村経営上大切なこと、住民の切実な要望を耳にした時は上司に報告すること

(三)上司に問われる場合のために、担当事務は常にととのえておく

(四)適時適切な報告をする

▷部下の指導監督

部下を理解する三つの原則
(一)働らく人の共通の心裡に通ずること
真価を認める・生活の安定
進歩発展・自由性の尊重・交際を求める

(二)個人差を認めて長所を伸ばす

(三)集団規準(集団は左ならえになりたがる)の善導

▷リーダーシップ(主導権)
これを正しく生かすためには職場集団(たとえば〇〇課)

東北電力だより

建設現場の感電事故防止

建設作業中の労務者が当社の配電線に触れて感電死又は重傷を負うというまことにお気の毒な災害が最近非常にふえておりますのでこれが未然防止のため下記につきまして特段のご協力いただきたくお願い申し上げます。

要望事項

配電線の近くで工作物の建設解体・修理・塗装等の作業をする場合は事前に必ず最寄の東北電力にお知らせ下さい安心して作業が出来るよう適

の現解を深め、共感を高め、潜在能力を引き出し高めることにつとめなければならない
職場集団のチームワーク
職場集団の目標と村全体の目標と一致しているか。(全体をはっきりつかんだ上に、部分を確認する)

▷リーダーシップの源泉

内におだやかな自信を持って

个性的であること
智性の要求をみたす力
自分の意志の伝達能力
十分な活動力

などの条件をそなえること

4、公務員の倫理

○郷土愛の精神

将来の日本の文化
20世紀最終の姿は「自然と人為の文化」である。そしてそれは当村のような山村に実現せらるべきものである。大きな希望と強い愛情をもって努力せられたい。

○公務員のあり方

▷人生の目的は幸福にあり、これに達するには快樂を求むるにあらざして完全なる活動にあり—アリストテレス—
(完全なる活動とは100%の生命の燃焼のことだ)

▷山高きに登りて声を発すれば遠きに達す。声の高きにあらざして立つところ高きが故なり—西田幾太郎—

▷真の善とはただ一つ、自己を知ることなり—西田幾太郎

当な防護措置をお取計らいます。

▷法律で定められている事項
建設工事をされる使用者(工事代表者)は配電線の近くなど危険な場所で作業する労働者の安全を確保するための措置として次のように義務づけられています。

- ①感電を防止するための囲いを設ける
- ②露出充電部分に直接絶縁覆い等の防具をかぶせる
- ③上記施設の外さらに感電の危険がある箇所に標識をつけること。

第9回

冬季青年集会

東由利村青年会の第9回冬季青年集会は、2月25・26の2日間、老方小学校で開催された。

集ったのは村のあとつぎとしてその将来を背負う男女の精鋭40名で、次のような事からについて熱心に学習した。

第1日

開会式

公民館長、自主性を養うこと
老方校長、個人の能力を集団の力によって高めよう。

分科会

テーマ「結婚について」

恋愛と結婚、恋愛をしようと思うが仲々相手にめぐまれない。見合い結婚も善意ある周囲の人々の助言を聞き分けることにより安全のみちだと思ふ。

家族、家族制度がなくなった今日でも、昔ながらの家という考え方が強く残っているそのよいところは延し改めるべきところは改めよう努



青年のつどい

3 税申告について

3月15日まで

所得税確定申告書を提出された方は事業税、住民税の申告はいりません。

—今年から申告手続が変わる—
◎所得税確定申告・個人事業税・住民税の申告は3月15日までです。

◎今年から所得税の確定申告に事業税・住民税の記さいらんがありますから必ず記載して下さい。

力しなければならぬ。

稼業、非農家で育ったために農家にとつぐことは他少不安であるが、夫さえしっかり支えてくれば十分について行ける。

慣習、旧来の慣習にとらわれず、話し合いによる新秩序は我々によってつくられなければならない(親子契約の話も出た)

座談会

助役をかこんで村行政の現況と将来の方向をきいた。

夕食後レクリエーション

第2日

全体会、青年会の組織はどうあればよいか。

講壇式討議

「社会情勢と青年の役割」講師、議会議長佐藤与吉郎。木島校長会長。農協指導部佐藤十内。郡連青佐々木理事(金浦)公民館畑山。

村の人口減と産業開発計画・民主々義社会を育てる道・農業の近代化・親子契約・青年集団の学習方法。

などについて青年の果すべき役割を熱心に話しあった。

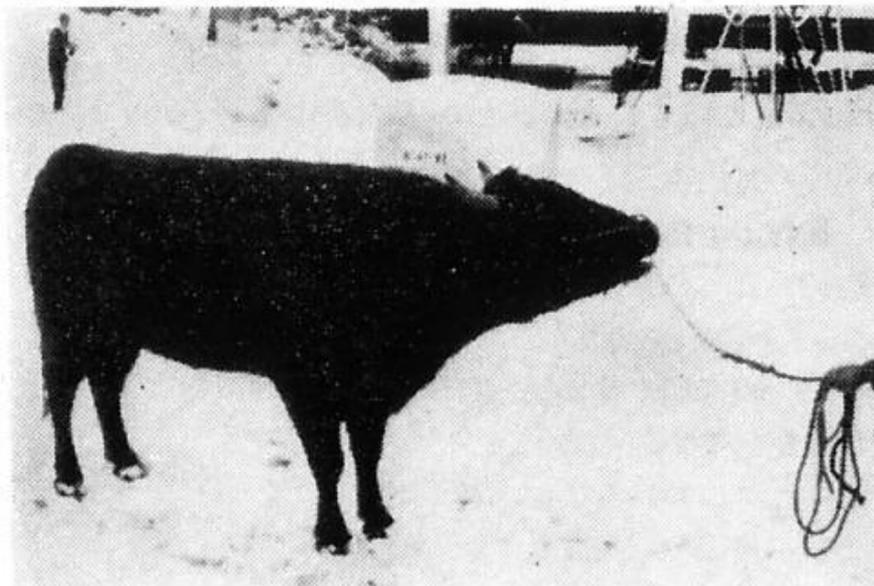
卒業 山田礼智
水清き高瀬の川のせせらぎ
は巣立つ子どもにささやく
ごとし
大空にそびゆる八塩の雪ひ
かり巣立つ子どもの瞳に映
えぬ
卒業の児らにおくると筆持
てばまなこにしみぬ短冊の
色
わかれ行く児らにおくらむ
わが詠みしつたなき歌を短
冊に書く
児におくる短冊の筆やすま
せて窓にあがるき雪山を見
る

種牡牛が来た

非常に難行していたたね牛導入の話が当局の努力によりやっとなまり、1月28日か

ら来ております。

種牛は和牛兼田号7才で、県から村で借入れ、老方佐藤寅次氏が委託管理しております。



木炭増産協議会

2月14日、由利地方木炭改良組合長猪股勘一郎氏と県農林部林政課技師佐々木克己氏郡林政課佐々木係長が来庁、村内製炭業者と木炭の増産について話し合いをした。

現在村の木炭生産高は、年間3万5千俵、1,575万円であり村の重要な産業の一つで殊に品質の優秀なことは古来

定評があり、現在も本荘では他町村産の物より俵当り30円高である。

従って生産が需要に追いつけない現状であるが、労賃高に炭価の値上りが伴わないことや、出稼などによる人手不足、それによるいろいろな障害が重なって生産がいちじるしく伸びなやんでいるので、増産の方法について熱心に話し合った。

新田若妻会

バレーボール練習

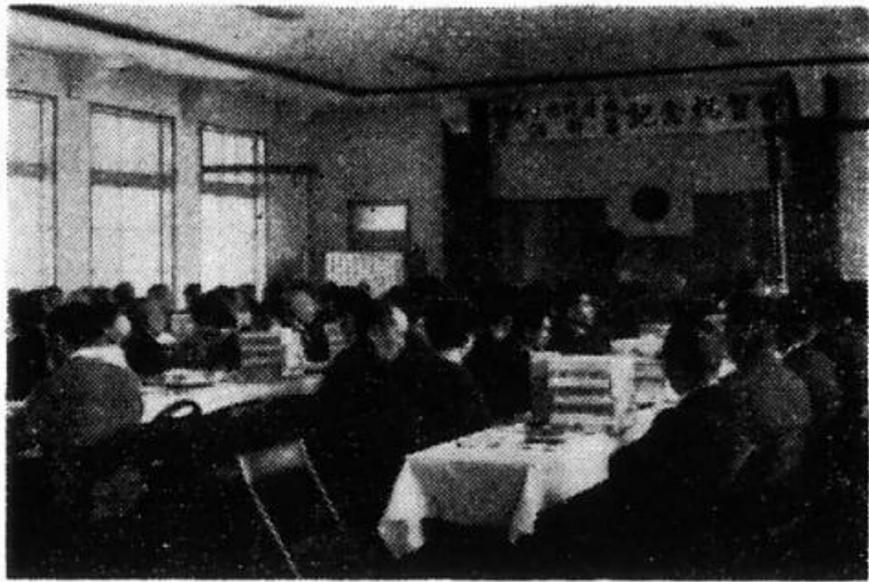
新田若妻会では、1月18日の部落づくり懇談会(蔵部)

で申し合せた第1・第3日曜を休日にするのを早速実行に移し、2月第1日曜の5日青年会の協力を得て蔵小学校で家庭バレーの練習をした。



矢島信用金庫祝賀会

2月3日「預金10億円達成 賀会を役場で開催した。
・店舗新築記念」の盛大な祝



「明日のない八丈島から」(1)

長谷山治弥

いつか、明日への希望を持ってない、ということで新聞記事になった時の表題ですが、浮世ばなれをした小島の暮しも、やがて1年になろうとしております。

電気も水もなく、自転車や牛馬の通う道もなければ、1軒の商店も役場も郵便局はおろか、ポストさえなく、警察は勿論医者となつて人は歯医者も牛の医者さえいないこの土地の生活が、ご想像ねがえるでしょうか。

屋根を洗って落ちる、軒の雨だれを溜めて、ポーフラの一杯わいた水が、呑み水となり、使い水となります。一切の生活物資は、一歩つまづけば命のないような断崖絶壁に出来た猫の通るような道を、皆肩にかついで運び上げます。隣り部落は八塩山程度の山のかげにあって、雨が降ればサルでもなければ歩けそうもない急な道がつづいています。それでもここで生れ、育った人達にとっては、この上ないなつかしいふるさとであり、住めばミヤコであって、両部落合せて2・3十戸あり中に、少しは若い人もあって子どもを育てておりますから私たちの仕事があるというわけです。

こんなところにも私には東

京のと真中と、ちっともかわらない仕事があるんだと思えば、自分のツツメにはほこりが感じられます。

この島には、これといったカネになる産物はありませんから、みんな失業対策事業(ニコヨン)の名目で、仕事のあるなしとは別に、月1万5千円位はありますので、米や塩を買う分には不足しませんから、あとは暇のあるにまかせて、まわりの海に終日つり糸をたれて、その日のサカナをとり、山菜や山イモなどを採っておかずを作り、日がくれば眠り、朝日が出れば起き出し、真冬でも綿入れなどはトンと縁がなく、氷は一生に数える程も見られません。従って家もただ雨風さえしのげれば事足り、寒さの心配はなく、1年の大半はパンツ1枚の裸姿、全く神代の昔もかくありなんといったその日暮しには、この世の天国といったところです。(つづく)

○長谷山氏～地下の沢千代蔵氏の弟昨年4月東京都から志望してこの教師に赴任

電熱温床の申込はお早く

たばこの温床づくりの時季が近づいて来ました。

申込みが一度に集中しないようなるべくお早くお願いします。(東北電力)

自衛隊父兄会総会 募集協力員会開催

2月20日午後1時から、自衛隊秋田地方部長桑名1等陸佐をむかえて、父兄会総会及び募集協力委員会を開いた。

本村出身隊員は49名 地方連絡部長あいさつ

陸海空自衛官はわが国の平和と独立を守る大切な任務を持って、規律正しい団体生活を送り、広い知識と高度な技術を身につけ、立派な社会人として成長しておる。

父兄会のみなさんは、会員相互の親睦をはかり、隊員の激励・自衛隊に対する理解を深め募集協力に一層のご努力を願いたい。

父兄会役員改選
会長、長谷山 政太郎
副会長、佐藤 栄 蔵
八 島 三保三
次の7名を自衛隊募集協力員に委嘱する。

- 大琴 石 綿 壬子雄
- 蔵 笹 本 道 好
- 法内 遠 藤 莊二郎
- 老方 長谷山 喜市郎
- 館合 八 島 与四三
- 田代 小 松 広 吉
- 黒淵 佐 藤 金 吉

全県技能競技大会で入賞

2月26日秋田市で行われた全県技能競技大会に出場した大琴の佐々木日出夫君(千代松氏長男)は建具の部で上位入賞した。

同君は2月19日の郡予選では見事優勝し、同部落の佐々木輝男君は2位となった。



写真、郡大会優勝額とカツブ

第15回商工会珠算検定 2月12日

受験者123名、合格者49名
2級、小笠原敏始(大琴)
" 杉江久美子(老小)
3級、佐々木範子・佐藤静子
小松利和子・畑山エイ子・遠藤真理子(以上宿小)宮崎レイ子・藤原達郎(老小)畑山和規子(下中)畠山幸子(定高)阿部千鶴子・小笠原充子(蔵小)小松幸子(新町)小松洋亮(玉小)
4級5人、6級5人、7級9人、8級15人
次回は6月11日の予定。

出稼ぎだより

…1見はなやかに見える都会生活も、暮して見ると私たちには気のゆるむひまもありません。

幸私たちは役場の手続き、安定所の紹介で来ておりますので、家庭はもちろん職場も安心して働けますし、会社でもとても親切にしてくれますのでご安心下さい。

早く出稼などしなくてもよくなってくればと、1日働らいて疲れて部屋へ帰れば、村当局のご厚志により、毎日郷里の新聞が見られますし、又村報・部落子ども会からのなつかしい我が子のたより等私達をはげましてくれます。本当にありがとうございます村長さん始め皆様へ厚くお礼申し上げます。

春3月末にはそろって元気で帰ります。そして本来の農業に専念いたし村づくりに励みます。

留守中は火の要心、子どもの教育等よろしくおねがい申上げお礼にかえさせていただきます。

1月30日、代表、遠藤平輔

3月「家庭の日」

19日は家庭の日です。入学・進学・就職など子ども達には落つかない月です。勇気と希望をもたせるように。18日からお彼岸です。祖先の話なども聞かれます。